

登録コード:MH302200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	運動学実習【20M～24M】 Kinesiology Practice			
担当教員	百瀬 公人			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/2学年		前期	月曜・1時限 月曜・2時限
単位数、講義室	1単位	保健学科運動療法実習室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		人の正常な動作がどのように行われているのかを運動学の知識を用いて説明できる	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		物理学、解剖学、生理学を利用して人の運動を分析し説明できる	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		人の基本動作を説明できる	
	MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		物理学、解剖学、生理学を利用して人の運動を分析し説明できる	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		人の正常な動作がどのように行われているのかを運動学の知識を用いて説明できる	
授業で学べる「テーマ」	キャリア			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業では、関節角度計、視覚的観察、ストップウォッチ、ビデオ、筋電計、三次元画像解析装置などを用いて、関節単位の運動分析や、歩行動作などの日常生活活動における動作分析を実施する。実習はグループ単位でデータ収集と発表に向けての討論を行う。全体発表会で学生は発表を行うが、各自1回は必ず行う。グループ内討論と全体発表会後に個人のレポート作成を行う。 本授業は、1年で学ぶ「基礎力学」、「系統解剖学」、「生理学」、「病理病態学」、「生理学実習」、「肉眼解剖学」などの知識を前提とし、2年生で学ぶ「理学療法評価学」、「整形外科学」などの基礎医学分野の内容と相補的に学んでいくことになります。また、3年で学ぶ疾患別理学療法、ならびに4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士および、運動学に関する研究者としての実務経験を生かして講義を行います。			
授業計画	第1回 (4月13日) オリエンテーションと動作解析(視覚的観察・起き上がり)実習 第2回 (4月20日) 動作解析(視覚的観察・起き上がり) 第3回 (4月27日) 動作解析(視覚的観察・起き上がり)討論 第4回 (5月1日) 関節運動とその制限因子実習 第5回 (5月11日) 関節運動とその制限因子実習 第6回 (5月18日) 関節運動とその制限因子討論 まとめ 第7回 (5月25日) 歩行分析(速度・ケイデンス・ビデオ)・授業アンケート			
授業の進め方	グループに分かれての実習(データ収集、発表資料パワーポイント作り)と全体討論、レポート作成(個人別)。レポート提出は討論を行った週の金曜日が締め切り日となります。グループ発表の討論時に指摘されたことなどを加味して、レポートを作成することになります。			
テキスト,教材,参考書	配布資料 参考書: 中村隆一他 基礎運動学(医歯薬出版) 中村隆一編 臨床運動学(医歯薬出版) KAPANDJI I.A.カパンディ関節の生理学(医歯薬出版) Donald A.Neumann著:筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)			
成績評価の方法	討論40%、実習(グループ内討論)20%、個人提出レポート40%を総合して判断します。 なお、実習中の討論については教員への質疑の内容を含めて評価します。また、討論においては発表の成果物および発表の仕方、質疑応答の対応を含めます。個人レポートは全体討論時の他のグループに対する指摘事項を含めてより良いものを作成してください。			
成績評価の基準	実習、討論、レポートを以下の基準で評価します。 秀(90-100点): 授業の達成目標水準から見て卓越している 実習課題を高度な自主学習内容を含めて論理的に説明できる 優(80-89点): 授業の達成目標水準よりかなり上にある 実習課題を簡単な自主学習内容を含めて論理的に説明できる 良(70-79点): 授業の達成目標水準よりやや上にある 実習課題を基礎的知識をもとに論			

成績評価の基準	理的に説明できる 可(60-69点)：授業の達成目標水準にある 実習課題を基礎的知識をもとに説明できる 不可(0-59点)：授業の達成目標水準より下にある 基礎的知識を利用できない
事前事後学習の内容	事前学習：課題の予習を行い実習が滞りなく始められるように必要な資料は事前に配布します。当日何を行うかをよく理解して準備しておいてください。 事後学習：グループ発表の内容及び討論の時の質疑応答の内容、教員からのコメントを参考にして個人レポートを作成して提出することで、事後学習が行われます。 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（4時間×7.5回）+ 自己学習時間15時間（2時間×7.5回）= 45時間 * 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	知識の学習ではなくて、実際に行えることを目的にしています。また、正解を覚えること以上に問題解決方法を身につけることを目的にしています。したがって、実習や討論には積極的に取り組んでください。また基礎的知識（解剖学、生理学、運動学）が不足していると討論に積極的参加ができません。基礎的知識の予習、復習をし、実習の準備をしてください。 質問・相談への対応：百瀬 公人 オフィスアワーとメールアドレス： 研究室は南校舎4階です。月曜日12時～13時、kmomose@shinshu-u.ac.jp